

M 試験研究機関等及び林業普及指導員

65 学校

(1) 大学 (平成27年3月31日現在)

学校名	開年	校日	学科及び 学科設置 年月日	学定 員数 (人)	生数 (人)	職 員 数 (人)	平成27年3月 卒業 者数 (人)	平成28年3月 卒業見込 者数 (人)	備 考
国立大学法人 北海道大学	明 9. 9. 8		林学科 明40. 6. 22	—	—	—	—	—	平成4年4月1日付け学部改正によ り森林科学科が発足。
			林産学科 昭24. 6. 1	—	—	—	—		
			森林科学科 平4. 4. 1	36	27	38	35		

(2) 農業高等学校 (平成27年3月31日現在)

学校名	開年	校日	森林科学科 (旧林業科) 設置年月日	森林科学科 定員数 (人)	森林科学科 職員数 (人)	平成27年3月 卒業 者数 (人)	平成28年3月 卒業見込 者数 (人)	所管演習林の現況			
								面 積 (ha)	蓄積 (m ³)		
									計	針葉樹	広葉樹
岩見沢農業 高等学校	明 40. 3. 10		大 9. 5. 1	120 (40)	6	33	40	184.0	24,000	14,000	10,000
帯広農業 高等学校	大 9. 5. 1		昭 18. 4. 1	120 (40)	6	39	40	28.0	7,000	4,000	3,000
旭川農業 高等学校	大 12. 5. 3		大 12. 5. 3	120 (40)	6	37	40	241.7	40,000	7,000	33,000

- 注1 昭和63年3月倶知安農業高等学校林業科閉科。
 2 平成5年3月静内農業高等学校林業科閉科。
 3 平成13年4月岩見沢農業高等学校 森林科学科に改編。
 4 平成14年3月美幌農業高等学校林業科閉科。
 5 平成14年4月旭川農業高等学校 森林科学科に改編。
 6 平成15年4月帯広農業高等学校 森林科学科に改編。

66 試験研究機関

(1) 独立行政法人 森林総合研究所北海道支所 (平成27年3月31日現在)

創 立 の 旨	森林総合研究所北海道支所は、天然林及び人工林など北方系森林において自然力を高度に活用した森林管理技術の開発研究を行うため創立された。 具体的には、森林の育成と保護、林業経営、国土保全、自然保護などの分野を中心に試験研究を推進し、これらの成果を活用し、森林施業の改善、進歩に資し、北方系森林における林業経営の発展に寄与することを目的とする。
所 在 地	札幌市豊平区羊ヶ丘7番地
開 設 年 表	明治41年6月 内務省野幌林業試験場として開設 昭和15年1月 帝室林野局北海道林業試験場を併設 22年5月 林政統一により、内務省野幌林業試験場と帝室林野局北海道林業試験場が合併し、林業試験場となる 28年10月 江別市から札幌市に移転、林業試験場北海道支場に改称 49年10月 札幌市豊平区豊平から豊平区羊ヶ丘に移転 63年10月 森林総合研究所北海道支所に改称 平成13年4月 省庁改編により、独立行政法人森林総合研究所北海道支所を設立 平成19年4月 独立行政法人林木育種センターを統合
研 究 事 業 概	1 森林の育成に関する研究 2 植物と土壌資源に関する研究 3 寒地の環境保全に関する研究 4 森林の生物被害及び生物多様性に関する研究 5 北方林の持続的な経営管理に関する研究 6 森林の健全性評価手法の開発に関する研究 7 CO2収支の統合化モデルの構築に関する研究 8 北方林における持続可能な森林経営に関する研究 9 森林生態系における遺伝子多様性の保全に関する研究
研 究 施 設	本館(3,893m ²) 特殊実験室(848m ²) 生物環境調節実験施設(377m ²) 二酸化炭素動態観測施設(高さ:メイン40m、サブ40m) 野兎生態実験室(142m ²) 鳥類野外実験室(56m ²) 群落水耕温室(300m ²) 樹病隔離温室(135m ²) 日長処理施設(129m ²) 標本館(392m ²) 苗畑調査実験室(345m ²) 鳥獣飼育場(222m ²)
研 究 設 備	DNAシーケンサー イオンクロマトアナライザー エネルギー分散型X線分析装置 低真空走査電子顕微鏡 ガスクロマトグラフ 全窒素全炭素分析装置 迅速(準)ドリル抵抗測定装置

(2) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 (平成27年3月31日現在)

創 立 の 旨 森林の多面的機能の発揮、森林資源の循環利用及び身近なみどり環境の充実や緑化樹関連産業の振興を図るために必要な試験研究を行い、森林・みどりづくりの推進に寄与することを目的とする。

所 在 地 美瑛市光珠内町東山

開 設 年 表	昭和32年 6月 1日	岩見沢林務署光珠内事業所として設置
	33年 4月 19日	岩見沢林務署光珠内林木育種事業所に改称
	36年 4月 25日	北海道光珠内林木育種場となる
	39年 4月 1日	北海道立林業試験場に改称
道南支場 (函館市桔梗372-2)	平成11年 4月 1日	緑化樹センターを設置
	22年 4月 1日	地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場となる
	昭和41年 4月 18日	道南試験地として設置
	昭和44年 4月 1日	道南分場に改称 昭和50年 8月18日道南支場に改称
道東支場 (上川郡新得町字新得西2線)	昭和42年 7月 19日	道東試験地として設置
	昭和46年 8月 5日	道東分場に改称 昭和50年 8月18日道東支場に改称
	昭和45年 7月 1日	道北試験地として設置
	昭和46年 8月 5日	道北分場に改称 昭和50年 8月18日道北支場に改称

研 究 事 業 概 要	1 地域の特性に応じた森林及びみどり環境の充実
	<p>ア 森林の多面的機能の発揮のための研究開発</p> <p>① 地球環境及び国土を保全する森林管理技術の研究と開発</p> <p>(1) リモートセンシングにおける3次元情報解析技術の開発</p> <p>(2) 風況にあわせた風害対策により収量・収益を最大化する人工林管理技術の開発</p> <p>(3) 酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査</p> <p>(4) 防災林の流体力に対する機能向上に関する研究</p> <p>(5) カンラン岩流域と森林形態が物質フローおよび陸域・沿岸域生物資源に与える影響の解明</p> <p>(6) 人工林の保残伐がもたらす生態系サービスを大規模実証実験で明らかにする</p> <p>(7) 北海道中標津町を対象とした吹雪発生予測システム活用と効果的な雪氷防災対策への支援</p> <p>(8) 湿地生態系における樹木を介したメタン放出：変動要因の解明と系全体フラックスの推定</p> <p>② 道民の生活環境を守る森林管理技術の研究と開発</p> <p>(1) 海岸防災林の津波減衰機能を発揮させる林帯整備・管理方法の開発</p> <p>(2) 保安林に対する強度間伐の実証的研究</p> <p>(3) 防風林が飼料作物の収量に及ぼす影響の評価</p> <p>(4) 防雪施設周辺における非平衡状態の吹きだまり形成過程の解明</p> <p>(5) 北海道太平洋沿岸の海霧を考慮した気候的乾湿度に対する海浜樹木の環境応答</p> <p>(6) 太平洋戦争後の日本海北部沿岸における砂丘荒地の状況と周辺住民の生活環境</p> <p>③ 森林とのふれあいや道民の森林づくり活動を支援する研究と技術開発</p> <p>(1) 企業の森づくり活動体系化による支援手法の提案</p> <p>イ 森林の生物多様性保全と健全性維持のための研究開発</p> <p>④ 生物多様性を確保する森林管理技術の研究と開発</p> <p>(1) 森林管理と連携したエゾシカ個体数管理手法に関する研究</p> <p>(2) 北海道東部・風蓮川流域における流域保全対策が草地・沿岸域双方の生産活動に与える影響</p> <p>ー森里川海の物質の環・地域住民の環の再生をめざしてー</p> <p>(3) 人工林において生物多様性保全と木材生産は両立できるか?</p> <p>ー保残伐実験による検証と普及方法の提案ー</p> <p>(4) シカの採食が森林植生に及ぼす不可逆的変化のプロセスの解明</p> <p>(5) 林業機械の走行が林床の植生発達と樹木の更新に与える影響の解明</p> <p>(6) 森一湿原一漁業のつながり調査</p> <p>(7) 北方林における攪乱後の主要樹種の成長と死亡：長期ストレスとしての個体間競争の影響</p> <p>(8) 保残伐実施におけるエゾシカ影響解析のための密度推定</p> <p>⑤ 森林・樹木の健全性を維持するための研究と技術開発</p> <p>(1) トドマツ根株腐朽被害地における次世代林造成技術の開発</p> <p>(2) 情報科学物質によるカラマツヤツバキクイムシのモニタリング技術の開発</p> <p>(3) 遺伝子浸透を伴うマイマイガの種分化に関する研究</p> <p>(4) 分子データに基づくハバチ類幼虫の同定</p> <p>ウ 身近なみどり環境の充実のための研究開発</p> <p>⑥ 北海道の風土に適した緑化樹等の新品種や生産技術の研究と開発</p> <p>(1) 道産桜における芳香成分等の新たな利用方法の開発</p> <p>⑦ 北国の環境に適した緑化技術や維持管理技術の研究と開発</p> <p>(1) 遊休農地の樹林化並びに小果樹生産地としての利用を目指した技術の開発</p> <p>(2) 石炭露天掘り跡地の初期成長促進を図る木本緑化技術の向上</p> <p>(3) 共振測定装置による樹木内部欠陥診断の汎用性の向上</p> <p>2 林業の健全な発展及び森林資源の循環利用の推進</p> <p>ア 林業の持続的な発展のための研究開発</p> <p>⑧ 森林資源の充実を図る育林技術の研究と開発</p> <p>(1) 「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成</p> <p>(2) 地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築</p> <p>(3) 成熟化するトドマツ人工林材の用途適性評価と利用技術開発</p> <p>(4) 林分状況に応じたカラマツ人工林単木管理手法の提案</p> <p>(5) 天然林の育成・資源保続に向けた樹種別資源量の評価</p> <p>(6) アカエゾマツ人工林の間伐シミュレーションソフトウェアの開発</p> <p>(7) 道南地域における人工林施業支援ツールの開発</p>

- (8) 天然更新したカラマツ・トドマツ幼樹の成長を促す施業方法の開発
- (9) 広葉樹林化技術の実践的体系化研究
- (10) トドマツ人工林材の利用促進体制の検討
- ⑨ 森林施業の低コスト化と森林資源の高度利用を図る技術の研究と開発
- (1) 集材方法と地形条件を考慮した森林作業道適正配置パターンの提案
- (2) 収益性及び資源構成に基づく林業経営シミュレーションモデルの開発
- (3) 保残伐施業におけるフォワーダ集材作業の実証的研究
- ⑩ 新たな品種開発に向けた林木育種技術の研究と高度化
- (1) 林業用優良種子の安定確保に向けた採種圃整備指針の策定
- (2) 北海道に適したコンテナ苗木生産技術の開発
- (3) カラマツ類の効率的な着花促進法の検討
- (4) 森林及び林業分野における温暖化緩和技術の開発
- (5) コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究
- (6) 根釧地域に適したトドマツ二世代精英樹の選抜
- (7) カラマツとグイマツ接ぎ木ポット苗の着花を誘導する栽培管理手法の開発

研 究 施 設 庁舎(1,579㎡) 実験棟(2,674㎡) 研修宿舎(1,176㎡) 温室(148㎡) 車庫(80㎡) 林業機械等整備格納庫(751㎡) 展示館「緑の情報館」(349㎡)

研 究 設 備 低温室 恒温室 恒温器室 クリーンルーム 恒温培養装置 回転振とう培養装置
クリーンベンチ ドラフトチャンパー リモセン多重解析システム 地図情報解析システム
フェラーバンチャ クロー型林業用トラクタ
グラップルスキッド タワーヤーダ 原子吸光分光光度計 イオンクロマトグラフ
ガスクロマトグラフ その他理化学機器

(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場 (平成27年3月31日現在)	
創立の旨	木材利用の多様化、林産工業の体質強化、未利用資源の活用等を図るため、木材需要拡大につながる新技術・新製品の開発、森林資源の有効利用技術、製材・乾燥・加工等の基本技術の改善及び先端技術の導入に関する試験研究を行い、林産業の振興に寄与することを目的とする。
所在地	旭川市西神楽1線10号
開設年表	昭和25年8月19日 北海道立林業指導所として旭川市緑町に開設 39年4月1日 北海道立林産試験場に改称 61年11月21日 旭川市緑町から旭川市西神楽に移転 平成元年6月3日 木と暮らしの情報館開設 平成22年4月1日 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場に改称
研究事業概要	<p>1 林業の健全な発展と森林資源の循環利用の推進</p> <p>ア 林業の持続的な発展のための研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林施業の低コスト化と森林資源の高度利用を図る技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 道内モデル地域における木質バイオマス発電導入による環境的・経済的影響の評価 イ 森林バイオマスの総合利用の推進のための研究開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境負荷の低い木材の改質・利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) セルロースを出発原料とする白金代替燃料電池用ウッドカーボンカソード触媒の開発 (2) 道産木材を用いたセシウム、ストロンチウム吸着材製造技術の開発 (3) 高度3次元成型を目指した木材繊維の潤滑促進処理の検討 (4) 木質熱処理物の複数の金属イオン存在下での錯体形成および金属錯体の耐電抑制に関する検討 ○ 森林バイオマスの成分・エネルギー利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 農業用廃プラスチックの再利用に関する研究 (2) カラマツ類の樹皮における二次代謝物と組織による化学的防御戦略の解明 (3) 地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築 (4) 寒冷地型省エネ・エコハウスの経済性、環境性の評価 (5) 国産針葉樹の直接酵素糖化処理に向けたイオン液体前処理法の開発 (6) カラマツ材破砕物の生産状況および有用物質抽出原料としての適正に関する研究 <p>2 技術力の向上による木材関連産業の振興</p> <p>ア 木材・木製品・木質構造物の安全性・信頼性・快適性向上のための研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 木材・木製品の耐久性、耐火性の向上及び評価技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 高浸透性木材保存剤で処理した単板を用いた高耐久性木質材料の製造技術の確立 (2) 接合金物による腐朽柱脚接合部の補強効果に関する研究 (3) FMCWレーダによる非破壊診断装置の腐朽検知に関する性能評価 (4) 屋外暴露による防錆処理鋼板の劣化評価に関する研究 (5) 保存処理木材中に含まれる塩化ベンザルコニウムの効率的かつ高精度な定量分析方法の確立 (6) 木材の光劣化抑制薬剤の探索 (7) 木材保存剤の定量分析方法の効率化および高精度化 (8) 道産防火木材の信頼性を高める耐候性調査 (9) 製造条件が構造用MDFの耐朽性に及ぼす影響に関する検討 (10) 道産スギを外装材に用いた防火構造外壁の開発 (11) 接着剤混入方式による防腐・防蟻処理合板の使用が耐朽性に与える影響についての検討 (12) 屋外利用を想定した単板積層材の耐候性能および耐朽性能に関する検討 ○ 安全で合理的な木質構造物の評価・設計技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 道産材を用いた枠組壁工法用製材の性能評価と利用技術の開発 (2) 運動床温水床暖房システムにおける利用法の変化に伴う対応法の開発 (3) 合理的な木質接合部を実現するための異種接合具併用接合に関する研究 (4) 国産材を高度利用した木質系構造用面材の開発による木造建築物への用途拡大 (5) 住宅への木材利用がもたらす健康増進効果のエビデンス構築 (6) 国産材を用いた接着重ね梁の長期性能評価 (7) 道産CLTの材料性能と接合性能の検討 (8) 開口を有する道産大型CLTの強度特性の検証 (9) 既存木質構造物の残存性能評価法と耐力再生法の提案 (10) 道産スギの利用促進に向けた検討 (11) 樹木が創る高分子構造を活かした複合材料の開発 (12) 道産樹種を用いたCLTの強度性能の検討 ○ 木材利用による居住性・快適性の評価技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 道産針葉樹材を用いた木製サッシの耐久性向上技術の開発 (2) 安全・快適なペット共生型木質系床材の開発と床仕様の検討 (3) 道産針葉樹材から放散する揮発性有機化合物の解明とにおいの評価 (4) 針葉樹材を内装材に活用するための評価手法の検討 (5) 道産スギを主な原料としたキッズスペース製作に関する検討 (6) CLT実用化促進のための長期挙動データ等の収集・分析 (7) 異樹種複合CLT実用化促進のための長期挙動データ等の収集・分析 (8) 木質パネルを対象とした透湿シミュレーション手法の開発 イ 特用林産物の高付加価値化のための研究開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 機能性や食味に優れたきのこの生産・利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 菌根性きのこ感染苗作出技術の開発 (2) 食用きのこを活用した畜産廃棄物の生物変換システムの開発 (3) マイタケの高機能性プレバイオティクス食品としての実証と低コスト栽培技術の普及 (4) ヤナギ有効活用調査研究 (5) 早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発

	<ul style="list-style-type: none"> (6) 道産ニュータイプキノコの生産と消費の定着化支援 (7) シイタケを活用した機能性食品素材製造技術の検討 (8) タモギタケの新たな効率的栽培システムの検討
ウ	木材加工技術や生産・流通システムの高度化のための研究開発
○	道産人工林材による高品質な建築材の生産技術の研究と開発
(1)	カラマツ材のねじれ予測技術の検討
(2)	成熟化するトドマツ人工林材の用途適性評価と利用技術開発
(3)	道産針葉樹原木の保管等に関する研究
(4)	カラマツ心持ち管柱のプレカット適正に関する検討
(5)	道産材を用いた高性能集成材の開発
(6)	道産材を用いたCLTの製造条件の検討
(7)	アカエゾマツ人工林間伐材の割れ、ねじれに関する調査
(8)	CLT用ラミナ性能に及ぼす材質変動幅の影響の検討
(9)	トドマツ人工林材の利用促進体制の検討
(11)	北海道産樹種の弾性定数の収集方法の確立
○	市場性の高い木製品や機械・装置等の研究と開発
(1)	椅子座面の専用加工機・形状測定機の開発
(2)	高機能フェノール樹脂を用いた木質ボードの検討
(3)	伐採木材の高度利用技術の開発
(4)	地域力を高めるものづくり産業モデルの検討
○	地域材の効率的生産・流通システムの研究と開発
(1)	「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成
(2)	FITが及ぼす製材業への影響評価と木質バイオマス発電のLCA
研究施設	庁舎(2,941㎡) 製材試験棟(995㎡) 粉碎成形試験棟(933㎡) 加工試験棟(995㎡) 応用試験棟(991㎡) 合板試験棟(1,243㎡) 性能試験棟(817㎡) 動力管理棟(1,021㎡) 研究棟(968㎡) 木と暮らしの情報館(545㎡) きのご試験室(239㎡) 多機能炭化物試験室(139㎡)
研究設備	製材試験プラント 乾燥試験プラント 加工試験プラント 合板試験プラント 粉碎成形試験プラント 林産機械試験設備 注入試験装置 成分利用実験装置 培養試験装置 性能試験装置 塗装接着試験装置 燃焼試験装置 耐候試験装置 材料測定・組織観察装置 分析・共通機器その他

67 林木育種事業の研究機関

(1) 国立研究開発法人 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 (平成27年3月31日現在)

創立の主旨	成長、材質の優れた木(精英樹)や病虫害害、気象害等に対する抵抗性の強い木を選抜し、それらの特性を解析し、遺伝的に優れた種苗を創り出すとともに、その種苗の配布等を行うことを目的としている。 また、在来の有用な樹種、枯損の危機に瀕している巨樹・名木等の貴重な遺伝資源の探索・収集・保存・評価にも取り組んでいる。		
所在地	江別市文京台緑町561番地1		
開設年月日	昭和32年4月1日		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 トドマツ及びカラマツの第二世代精英樹の選抜 2 材質の優れたトドマツ品種の開発 3 木質バイオマス生産に適したヤナギ品種の開発 4 北方針葉樹の着花促進技術の開発 5 北方樹種のコンテナ育苗技術の開発 6 林木遺伝資源の収集・保存戦略の構築 7 検定林調査、人工交配、検定林(第二世代)造成 8 林木遺伝資源の探索・収集、増殖・保存、特性評価、情報管理 9 採種園造成のための原種の生産・配布 10 特定母樹及び開発品種の普及促進に関する講習・指導 		
事業施設	原種苗畑(1.43ha) 遺伝資源保存園(8.90ha) 育種素材保存園(42.65ha) 交配園(4.75ha) 試験園(9.34ha) 計 67.07ha		
研究設備	実験棟(163㎡) 材質検定用木工室(91㎡) 交配検定用温室(148㎡) 遺伝子等解析室(42㎡) 組織培養環境順化室(75㎡) 増殖材料貯蔵室(59㎡)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1 つぎ木 クローン数 241 4,354本 2 払出 クローン・系統数 280 1,882本 		

(2) 国立大学法人 東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 (平成27年3月31日現在)

創立の主旨	学術として林木育種の基礎的研究を行うとともに、一部北海道における重要造林樹種の品種改良に係る具体的問題の研究を行うことを目的としている。		
所在地	富良野市山部113番地		
開設年月日	昭和27年8月		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 カラマツ属樹木の育種材料の系統保存 2 外来樹種の本道における導入適応性の検討 3 トドマツの標高別変異の解明 4 優良広葉樹の遺伝子資源の保存及び増殖 5 エゾマツ、ブナ、ミズナラ、カバノキ属の産地試験 		
事業施設	育種系統試験林(11.69ha) 生態遺伝特性試験地(8.97ha) 外来樹種試験地(10.49ha) 採種園・採種林(3.31ha) クローン集植所(9.84ha) 樹木園・見本林(30.42ha) 計 74.72ha		
研究設備	実験室(75㎡) 温室(63㎡)		

(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 森林資源部経営グループ(道南支場、道東支場、道北支場) (平成27年3月31日現在)

創立の主旨	民有林の生産性を高めるために、生長の早い形質の良く諸害に強い林木の選抜育成及び新品種を作出する試験研究並びに林木育種に関する技術指導を行うことを目的とする。		
所在地	美瑛市光珠内町東山(道南支場-函館市桔梗372-2、道東支場-上川郡新得町字新得西2線、道北支場-中川郡中川町字誉300)		
開設年月日	昭和32年6月1日		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 優良遺伝資源の開発と育成 2 優良遺伝資源の短期増殖技術の開発 3 遺伝資源の評価、保全 		
事業施設	苗畑(2.74ha) 採種園(3.80ha) 集植所(6.60ha) 検定林・試験林(19.89ha) 計 33.03ha		
研究設備	実験室(235㎡) 温室		

68 林業普及指導員の配置 (平成27年3月31日現在)

区分	配置数 (人)	一般民有林 指導森林面積 (ha)	林業普及指 導員一人当 たり平均指 導森林面積 (ha)	森林所有者数 (人)	林業普及指 導員一人当 たり平均指 導森林所 有者数 (人)	
本庁	9	-	-	-	-	
(総合)振興局森林室	石狩	5	49,527	9,905	5,770	1,154
	渡島東部	5	100,841	20,168	12,933	2,587
	渡島西部	3	26,164	8,721	4,126	1,375
	檜山	6	60,824	10,137	7,507	1,251
	後志	6	134,497	22,416	18,422	3,070
	空知	8	108,557	13,570	8,552	1,069
	上川南部	8	141,642	17,705	10,701	1,338
	上川北部	5	80,511	16,102	5,948	1,190
	留萌	6	72,766	12,128	4,051	675
	宗谷	5	156,593	31,319	3,990	798
	林-ツノ東部	9	106,512	11,835	11,189	1,243
	林-ツノ西部	7	124,803	17,829	5,215	745
	胆振	7	119,806	17,115	9,399	1,343
	日高	7	121,911	17,416	6,311	902
	十勝	12	230,910	19,243	13,587	1,132
釧路	6	176,821	29,470	6,494	1,082	
根室	4	58,393	14,598	3,790	948	
小計	109	1,871,078	17,166	137,985	1,266	
合計	118	1,871,078	17,166	137,985	1,266	

北海道水産林務部森林環境局森林活用課調べ